

## 平成29年度学校関係者評価委員会

1. 日時 平成30年7月5日(木) 19:30～22:00

場所 函館歯科衛生士専門学校 会議室

2. 出席者 委員 岩井 祐司 (函館歯科医師会 副会長)  
大内 英樹 (函館歯科医師会 理事・教務委員長)  
東 清美 (北海道歯科衛生士会 函館支部長)  
椀澤 里佳 (なしき歯科医院・実習指導者)  
澤谷 幸絵 (函館歯科衛生士専門学校 同窓会会長)  
学校 奥 ひろみ (函館歯科衛生士専門学校 校長)

### 3. 次第

- (1)学校関係者評価委員会の趣旨説明
- (2)平成29年度事業計画・報告について
- (3)平成29年度自己点検評価報告書の説明
- (4)質疑・応答
- (5)評価・意見交換(改善意見、助言等)

上記(3)～(5)を領域ごとに行う

自己点検評価における領域ごとの学校関係者評価・意見

領域	項目	評価・意見
II. 学校運営		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 月に3~4回更新しているHPのトピックスは、高校生の興味を引いて良い。</li> </ul>
III. 教育活動	1. 教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校側から年度毎に学生の傾向(学力含)についてお知らせすることで、各講師は試験問題の難易度を調整し学校が適正とする平均点にできるのではないか。</li> <li>○ 3年次後期の授業は、全て国家試験対策授業(総合講義)とはできないものか。</li> <li>○ 学校の目指す即戦力の育成には、臨床実習において医院間で可能な限り実施内容の統一を図るなど、調整が必要ではないか。</li> </ul>
	2. 資格試験	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 国家試験に際して、対象学生にマンツーマンで対応・指導しているのが良いと思うが、心理的負担も多く大変だろうと思う。よくやっている。</li> <li>○ 国家試験の対策として、担任の全体指導とは別個に個人指導に重点を置くという方向転換は良いのではないか。</li> </ul>
	3. 教職員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 歯科衛生教育学会への参加は暫く見合わせているようだが、大学・短大の教員による研究発表や論文に触れる機会であり、新カリキュラムの課題研究に活かされると考えられるので、参加した方が良いのではないか。</li> </ul>
	4. 在学生の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ Q-U(学校満足度調査)の実施は、退学率の減少に効果があったのではないか。</li> <li>○ 国家試験合格が困難な学生は1年次から予測できるのであれば、早期から工夫や個人に合わせたアプローチの方法を変えることもできるのでは?できる学生が他の学生に指導するという方法もあるが試してみてもどうか。</li> <li>○ 仲の良いクラスは不合格にならないという傾向があるように感じる。</li> </ul>
IV. 学修成果		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 就職における過去5年間のデータでは、渡島檜山管内に103名が就職している実績は、地方出身者を除けば全学生の80%位であり、地元就職率の目標に達している。</li> </ul>
V. 学生支援	1. 在学生への支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 保護者との連携・対応では、問題となる前に電話や文書で連絡し情報を共有していることはきめ細やかで大変良い。継続してほしい。</li> </ul>
	2. 卒業生への支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 離職者への連絡・案内が困難である昨今、インターネットを活用した情報の発信をお願いしたい。</li> <li>○ 復職支援等に関しても同窓会でできることが少なくなっている。学校HPの同窓会のフォームを充実させてほしい。</li> <li>○ 歯科衛生士バンクに関しては、学校の負担にならない範囲でできる方法を検討し情報提供でも良いのではないか。</li> </ul>
VI. 教育環境	1. 施設・設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 電子黒板が導入されたが、スライド表示中に色ペンで書き込めるのが良い。</li> <li>○ 教科書中心で授業しても、重要箇所やポイントが分からずにいる学生もいるため、最終的には板書を希望する学生が多いのだろう。</li> <li>○ 学生から良く分かったと評価される授業を公開して、講師も見学できるようにしてほしい。</li> </ul>
	2. 実習施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 施設や病院(病棟)での口腔ケアの需要が高まっていることから、臨地実習を実施する際には、道南圏域在宅歯科医療連携室の歯科衛生士(卒業生)の支援をお願いしてついでに、慢性期、周術期、回復期等を揃える必要があるのに注意するように。</li> </ul>
VII. 学生募集		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校HPで体験入学の様子を見たり、申込みもできるのは便利でよい。今や病院でもネット予約ができる時代。もっとインターネットを活用した募集もできないものか。</li> <li>○ 実習白衣を選択することができたり、マネキン実習室の充実など、次年度に向けて学校の魅力をHPで若い世代にアピールできるのではないか。</li> <li>○ 学校HPの更なる充実に期待したい。</li> </ul>